

# 季刊 まち・コミ

2013年 冬号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



今月の注目記事 P1 地域に目を向け、行動する人が多いほど いきいきと暮らせる、強い街になる。

## 地域に目を向け、行動する人が多いほど いきいきと暮らせる、強い街になる。

—まち・コミの神戸での経験と教訓—

まち・コミュニケーション 宮定章

2014年1月17日で、阪神・淡路大震災から丸19年を迎えます。そこで今号では、まち・コミが神戸での活動の中でどのような経験してきたのかを改めて振り返ります。またこれらの経験を、東日本大震災の被災地支援につなげたいと思います。

まち・コミュニケーション（以下まち・コミ）は、阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた神戸市長田区御蔵通5・6丁目（以下、御蔵地区）の復興まちづくりを「住民と共に取り組む」ため設立された。

震災前の御蔵地区は、町工場や多くの木

造長屋が密集し職住近接で住民が暮らす、いわゆる下町であった。震災直後の火災で地区の8割が焼失。約300世帯の内7割は、その日から住む場所や働く場所を失った。離散した住民が今後について皆で話し合う場も持てないまま1995年3月17日に復興土地区画整理事業地区に指定された。



1995年2月20日の御蔵地区の様子

コミュニティを大切にする  
復興を目指して

- 地域に戻りたい人が戻って来られるように -

震災直後の御蔵地区の課題は「まちに人を戻すこと」だった。火災での被害は、再び人々の暮らしが営まれる日が来ることを想像できないほどだった。全国から集まったボランティアの多くが郊外仮設住宅の支援に向かう中、「まちの再生なくしては、復

興はありえない」と、震災前の地域コミュニティに注目した東京から来たボランティア二名と地元企業社長がまち・コミを創設。スタッフが常駐する体制を作ること、御蔵通5・6丁目町づくり協議会（以下、協議会）の事務局的役割を担うなど、住民と共に地域の復興に取り組んだ。

### コミュニティ再認識のための集いの場づくり

御蔵地区では当初から、地区から遠く離れた避難所や仮設住宅で暮らす人々が、少しの時間でもまちに戻って集える場をつくるために、盆踊りや餅つき、慰霊法要といった各種イベントを開催している。多くの知人、顔見知りと再会することで、自分の居場所は御蔵地区だと改めて感じた人もいただろう。まち・コミはこのようなイベント等も、汗を流して支援することで、徐々に住民との信頼関係を築いていった。

### 専門家との連携で共同再建を提案

協議会での会合が回を重ねるにつれ、地域の復興計画は具体的になってきた。しかしながら協議会およびまち・コミは、一度地域外に出てしまった人が戻ることの難しさを徐々に知ることになる。区画整理事業により、本再建には時間がかかるため、一度転出してしまおうと転出先で生活が成立してしまい、地域のことを思いながらも、物理的に戻る環境づくりが難しくなってくる。このような課題に対応するため、御蔵地区に共同再建住宅の話が持ち上がった。協議会は大学教授でもある建築家に共同再建案を提示してもらい、共同住宅をイメージするための勉強会を何度も開いた。まち・コミは、建築や法律の専門家と、協議会の間を取り持った。またアンケートの資料などを元にして権利関係等を整理すると平行して、大学の研究室との連携で50軒近くの意向の聞き取り調査を実施し、共同再建の現実化を模索した。

### コミュニティを意識した住まいづくりコーディネート

意向の聞き取り調査時からの信頼関係を生かし、まち・コミが共同再建住宅のコーディネートした。ボランティアがコーディネートを請け負って完成した神戸で唯一の事例として、ある程度の評価を得ている。コーディネーターの役割は権利者と設計者、工務店との調整等、建設工事に関するだけでなく、権利者にはご高齢の方が多かったため、住宅建設中の仮住居の確保や引っ越し等、生活再建そのものも支援した。計画は徐々に縮小してしまっただが、1999年に10世帯の権利者からなる小規模な共同再建住宅「みくら5」が完成した。（詳細は、『みくら5記録集』まち・コミ発行）

### 地区へ戻る可能性のある人々への情報提供と対応

地区内には市営住宅の建設が計画された。これは本来、震災前に御蔵地区で居住していた人々を優先的に入居させる性格をもつものであった。だが、完成するのが震災から4年を経てからと非常に遅く、入居資格のある者でも情報を得ていなかったために、地区内に市営住宅ができる予定を知らない者が多かった。そこでまち・コミは、連絡先を調査して直接連絡を取り、御蔵の地元に建った市営住宅に入れるよう、訪問し聞き取りを行った。1999年に95戸の市営住宅が完成。協議会とまち・コミは何とかして地域に人を戻そうとできるかぎり奮闘したが、結果的にこの市営住宅に入居することで御蔵地区に戻ってこられた住民は、23世帯しかいなかった。

震災から10年を経た段階で、御蔵地区の人口は震災前の3分の2にとどまった。さらに被災前から御蔵地区に住んでいた人々で計算すれば、地域に戻ってくるのができたのは3分の1しかない。

## 自らまちづくりを模索し 行動できるようサポート

### 復興事業だけに留まらない 地域住民のまちづくりの想いをサポート

区画整理事業により建物や道路等は完成する。しかしまちの人々は言う。「“ 仏つくって魂いれず ” では、人々が集い響き合わなくては、何のための復興まちづくりかわからない」と。この考えをもとに、季節の行事等人が集いやすいイベントを行うため、地元のご婦人方が主体となって“我が街の会”(任意団体)を設立した。御蔵地区ではこの会を中心として、「非常時に最も頼りになるのは隣人である」という被災時の教訓をもとに、コミュニティ強化を図り、「人と人の繋がり」を大切に活動が行われていった。資金調達のための助成金の申し込みや、組織運営の補助をまち・コミが行った。

### 新しいご近所さんとの繋がりづくり - コミュニティスペースの 設立・運営サポート -

日常的なまちづくりは、住民が気軽に寄れる場がないとできない。そこで2000年4月、まち・コミは地域住民とともに、共同住宅「みくら5」の1階にコミュニティスペース「プラザ5」を設立し、地域住民自らが高齢者や子供のケアを行える体制づくりを支援した。地元の人だけでは、時間的、技術的にできないところを、外部のボランティアが補うことでふれあい喫茶・ふれあい食事会・パソコン教室・絵手紙教室等の交流事業が企画・開催されている。住民同士、住民と外部ボランティアが切磋琢磨しながら、地域の魅力を生み出す場となった。

### 地域資源の発掘 - 写真展、地域カルタ作り、百聞くらぶ -

震災により、家や家財等(財産)が焼けてしまった。また多くの思い出の写真も焼失した。そこで残っている写真を集め、みんながかつての御蔵地区を思い出そうと、2002年にまち・コミの記録・整理コーディネートの元、震災前の地域の写真を集めて、住民達による写真展を開催した。

存在する写真だけでは表しきれないものもあるので、翌年は地域カルタを作成しようと、地域の方々が「地域の良いところ」をテーマに句を詠み、絵が描ける方が絵にしてカルタ作りをした。

地域文化をさらに掘り下げするための感性を磨こうと、文化人に地域へ来て頂き、“百聞くらぶ”という講演会も行った。

### 作業に汗を流し、新しい街にも愛着を - 地域の拠点づくり -

御蔵地区では、新しいまちの創造のため、公園の花壇づくり、芝張り、慰霊碑のコンクリート打ち、コミュニティ道路のブロック張りといった作業に参加し、住民とボランティアが共に汗を流している。それもまた、震災で一度崩れたコミュニティを強固にするために役立つものであった。

土地区画整理事業の進むまちは、どちらかという工期と価格を優先したプレハブ住宅が目立ち、新興住宅街のようになってしまった。せめて人の集まる場ぐらいは、かつてあった長屋のような人の気配、木のぬくもりを感じられるような建物にしたいと、兵庫県香住町安木村の古民家を移築した集会所の建設が決定された。昔の民家は「結(ゆい)」という組織をつくり、地域の皆が集い協力して建てるものであった。その建設過程で人のありがたさ等を知ったものだ。震災で地域のコミュニティが失われたこのまちで、それを再現することが試みられた。御蔵地区の住民とボランティアが協力して行った。特に小舞竹編みや壁土塗りといった作業には、小学生から80歳のお年寄りまでが参加した。建設費用の不足分は地元と全国からの募金を頂いた。皆が一



つものものをつくるために作業する中で、日頃は見えにくい人の良さを感じた。総勢2000人を超える人が関わり「この建物は建設工事の段階から、集会所になっているのではないか」との声もあった。(詳細は「月刊まち・コミ2002年7月号」「月刊まち・コミ2004年5月号」等)

### 震災経験を語り伝える

- 震災体験学習・研修・講演 -

震災体験を聞かせてほしい、教訓から学びたいという思いに応えるため、震災体験学習(小中高校生向け)、研修(大学生、社会人向け)、外部に出向いての講演を積極的に行っている。震災体験学習は、地域の方々語り部として、それぞれの体験を語る場のコーディネートをまち・コミが行っている。

### 神戸を越えて各地でも活動

- 兵庫県豊岡市出石町、台湾 -

2004年の台風23号より、出石川決壊被害にあった兵庫県豊岡市出石町鳥居地区。多くの農家が農地の被害を受けた中、市民農園を再建したいという住民の思いを後押しするためまち・コミは、2005年2月より、被害を受けた市民農園予定地(3,000平方m強)を借り、農作業に取り組んでいる。2007年3月市民農園オープン後も、地域住民や農園利用者等とともに資源を発掘し、そして生かし、復興活動だけで終わることなく、地域活性化のために工夫しながら「コミュニティの持続的な発展を支援すること」に取り組んでいる。

神戸で古民家移築集会所を建設した後、2000年から交流の続く台湾(1999年集集大地震)の方とも、国を越えて台湾で古民家を建設しようと、台日交流古民家移築事業が始まった。2004年8月に福井県大飯郡おおい町にある、作家の水上勉氏の父が棟梁として大正5年に建てた古民家を解体。そして2009年に台北縣淡水鎮にて建設し

た。台日の大工、ボランティアが、5,000人関わる大プロジェクト。まち・コミは事務局としてコーディネートした。



1996年8月御蔵地区を元気づけた東北の七夕

### 東北へのメッセージ

自らの力を発揮して前に進もうという  
住民の気持ちを後押ししたい

まちづくりに最も必要なのは “人の力” である。震災当初の御蔵地区は、家屋が焼失して住民が離散した状況のため、ボランティアが緊急的に “人の力” を補った。その後も多くのボランティア・学生・専門家等が、地域に時間・知恵・資金を投入している。

住民は自身の生活再建のためにしなければいけないことも多く、また専門用語が飛び交うためまちづくりをイメージしにくいこと等、フォローを必要とする部分が多かった。そこでまち・コミが、支援者と住民間の翻訳機能を持った常駐の事務局的役割を担った。また震災当初、行政やコンサルタントは、土地区画整理事業のボタンのかけ違いでなかなか住民とおりが合わない場面もあった。その時、住民の横でその気持ちに共感し、共に悩み考え、前に進もうとする気持ちを後押しするのが、まちづくり支援をするまち・コミであった。ある住民は「専門家であれ何であれ、まずは住民の横にいて一緒に考えて欲しい。それだけで心強く、将来のことを考える気になる」と言う。これからも、自分たちの街のために一肌脱ごうという住民を支援したい。



新監事に津久井進先生をお迎えいたしました

この度、当団体の監事に、弁護士の津久井進先生をお迎えすることになりました。当団体へのご指導いただき、復興まちづくり制度にも取り組みたいと思います。

こうべあいウォーク開催 (主催:こうべあいウォーク2014実行委員会)

開催日:2014年1月12日(日) 雨天決行

募 金:1,000円から (お気持ち次第で)

スタート:受付9:30から10:00までで随時出発 大国公園(JR 鷹取駅南東徒歩5分)

まち・コミの事務所がある「みくら5」がゴールです。お待ちしております。

<http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/new/2013/11/2014201412.html>

1月17日(木) 早朝からお待ちしております

阪神・淡路大震災の発生から19年を迎えます。

まち・コミスタッフ一同、午前5時46分を慰霊の気持ちで御蔵北公園(まち・コミュニケーション御蔵事務所のすぐ南)にて迎えます。その後、6時ごろからは事務所内にて、震災を語り、まち・コミに関わるみなさまの交流の場を考えております。ご都合がよろしければ、ぜひお越し下さいませ。



2013年1月17日午前の法要の様子

## 大地のつぶやき

阪神淡路の震災から足かけ二十年になる。敗戦後二十年で東京オリピックが開催された。その二十年は幼・少・青年と成長期で、どちらかといえは受け身の二十年だった。それに比べこの二十年は能動的に、常に意識しながら動いた。それは壮年から老年にさしかかる年齢で、ある程度分別できる様になっていたからだろう。

それにしても変化は早いと実感できる。腕白な中学時代によく同級生数人と元ブラ(元町をブラブラと歩く)をした。長田の五番町七丁目から乗った市電を大倉山で南下して神戸駅で下車。先ず元町商店街の西端にあつた三越百貨店に入る。エレベーター(当時はエスカレーターはない)に乗り、エレベーターガールを遠めに見ながら店内をぐるぐる回り外へ出る。元町商店街を東へと闊歩する。日本でも有数の商店街で、超一流の老舗がずらっと並んでいた。生意気盛りの中学生は宝文館に立ち寄り、学習参考書を手に取りパラッとめくり分かった様な気になり、次に海文堂を目指す。専門書が沢山あり、特に船舶関係の写真集や気象の本をめぐり、世界を近く感じながら備えてある大きな船の舵やら羅針盤を触り、あ、これが外国とつながってんやと納得する。今度は洋書の丸善に寄る。読めもせんのライフやタイムの写真から彼の地の生活の一端を学ぶ。外へ出ると露天商が万年筆を売っている。数人の客を相手に「これはエポナイトで出てるし、ペン先は14金や。五百円が今日は三百円や、どや買わんかいや、その兄さんどや?」仲間の一人が動く。「アカンまだや!」と小声でささやく。誰も動かない。「え、い! 二百円でどや!」という声、同時に「アカン、諦めよ。今日は百円しか持ってないもんナ」と握っている百円札を見せるともなく離れかけると「そな百円でえ、ワー!」取引成功。古き良き時代の懐かしい思い出が一杯。その丸善も既になく、今また海文堂もなくなつた。元町商店街には少年の心をときめかす知の源泉がこんこんと湧いていた。実に淋しい限りである。

株式会社兵庫商会 田中保三

# まち・コミ活動報告 9/1 ~ 11/30

- 8/20-9/9【震災復興】東北行き
- 9/4-5【視察受入】関西大学・石巻
- 9/10【地域交流】出石市民農園
- 9/16【情報発信】季刊まち・コミ印刷・発送
- 9/22【地域交流】出石市民農園
- 9/23-10/10【震災復興】東北行き
- 9/24【講師派遣】須賀川商工会議所・震災体験学習について
- 9/24-25【視察受入】東北大学・雄勝
- 9/26【視察受入】玉野総合コンサルタント・共同建替住宅みくら5について
- 9/27【震災学習】寝屋川市立成美小
- 9/29【震災学習】語り部研修 稲村の火記念館へ
- 10/12【講師派遣】日本災害復興学会
- 10/14 臨時総会
- 10/14【勉強会】御蔵学校
- 10/19-20【地域交流】出石市民農園(黒大豆枝豆収穫)
- 10/23【震災学習】春日井高等学校
- 10/24【勉強会】御蔵学校
- 10/26-11/1【震災復興】東北行き
- 11/2【地域交流】出石市民農園
- 11/7-19【復興支援】東北行き
- 11/13【震災学習】加古川市立両荘中ヒアリング調査
- 11/16【研修受入】関西大学社会安全学実習視察研修
- 11/20【研修受入】神戸大学キャンパスアジアプログラム
- 11/2【地域交流】出石市民農園(たまねぎ植え)
- 11/26-【復興支援】東北行き
- 11/30【講師派遣】土木学会西部支部調査委員会シンポジウム

## ご支援、ありがとうございます。9/1 ~ 11/30(新規・継続) 順不同・敬称略

- 【正会員】井上赫朗(東京都) 浦野正樹(埼玉県) 遠藤勝裕(埼玉県) 田中貢(大阪府) 田中保三(兵庫県) 宮定章(兵庫県) 戸田真由美(兵庫県)
- 【賛助会員】島田明夫(宮城県) 兵庫県震災復興研究センター(兵庫県) 大久保洋子(兵庫県) 安藤厚子(高知県) 直田春夫(大阪府) 黒崎浩行(東京都) 姉川昌雄(兵庫県) 熊谷博子(東京都) 桂光子(兵庫県) 芦田英機(大阪府) 難波健(大阪府) 碓田智子(大阪府) 豊島学恵(大阪府) 大牟田智佐子(大阪府) 津久井進(兵庫県) 川島大輔(北海道) 高谷克人(東京都) 室崎益輝(京都府) 辻野芳郎(兵庫県) 濱岡歳生(山口県) 川村武也(兵庫県) 山下憲子(兵庫県) 大島英司(東京都) 新川泰道(秋田県) 鈴木ケイ子(新潟県)
- 【寄付】室崎千重(奈良県) 大久保妙子(兵庫県)
- 【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

### 会員募集中!

認定NPO法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができますようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

### 会員種別

- 賛助会員**  
当法人の事業を、会員として賛助してくださる方  
年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし
- 正会員**  
当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方  
年会費：10,000円 総会議決権：あり  
入会申込書のご提出をお願いしております。
- 購読会員**  
当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方  
年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 まち・コミの事業年度は1月から12月。NPO法人としての2年目を終えようとしています。応援ありがとうございます。(戸)

### お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

#### 【郵便振替】

口座番号 00950-3-42788

#### 【三井住友銀行・長田支店】

普通口座 7669623

ご寄付もよろしくお願いたします

2013年12月1日発行 no.5

編集/発行 特定非営利活動法人  
まち・コミュニケーション

事務所 〒653-0014  
兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)  
TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859  
宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail [m-comi@bj.wakwak.com](mailto:m-comi@bj.wakwak.com)  
URL <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

ホームページからバックナンバーをご覧くださいませ